

# パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2007年9月1日

48号

## 第七回国際協力青年奉仕隊の活動支援の為、活躍する高校生達



第五回国際協力青年ボランティアに参加した重広貴美さんが活躍するボランティア団体STF（サービス フォ ピース）が南北米、パラグアイのインディヒナ教育と環境保全を目的として今年も学生を派遣する南北米福地開発協会主催の「第七回国際協力青年ボランティア隊」活動協力のため、七月二十八、二十九日にSTF会員が家庭訪問をし、切手収集をしてくれました。早速、切手が換金され、パラグアイ、インディヒナの学校に文具を届ける資金として用いさせて頂きました。

「二〇〇七年度夏季の中高生の実践活動は途上国支援のため行われました。今回は実践活動として南北米福地開発協会が主催する青年ボランティア隊活動援助のため、切手やはがき、金券などを一日間にわたって一軒一軒を訪問しながら回収しました。柴沼先生の話から南米レダについても興味を持ち、そしてその人たちが支援する回りの村々にも興味を持ちました。切手回収は具体的に七月二十八日と二十九日に行われ、朝の九時に出発し、五時に戻ってきてそれから切手の仕分けを行いました。終わってからは高校を卒業したらぜひ青年ボランティア隊に参加してみたいという声がありました。具体的に自分たちの活動が地球の裏側にいる子供たちのためになり、家に眠っているものを通しても為に生きる事が出来ることを学びました。今回参加して多くのことを学んだ一人ひとりが学校や地域で様々な具体的なプロジェクトを開拓していくことでしょう。

## レダ報告（ジャトロファ及び植樹活動について）

一〇〇七・八・十七 飯野記

八月十六日は、暑さで十人以上の方がお亡くなりになる日本全国大変な暑い日でした。埼玉の熊谷市と岐阜の多治見市で気象庁観測史上最高気温四十・九を記録しました。ちなみに從来は、一九三三年七月の山形市の四十・八が日本最高気温として残っていますから、実に七十四年ぶりの更新です。猛暑の原因は、地球温暖化から来ていることは明確です。また同日の産経新聞は北極海の氷が最小になつていると、以下のように伝えていました。

「北極海の氷の面積が一九七八年の観測開始以来、過去最小になつていることが海洋研究開発機構などによる衛星観測で十六日、分かつた。地球温暖化による海水温度の上昇などが原因とみられる。氷は九月中旬まで減少が続く見通しで、国連の「気候変動に関する政府間パネル」（IPCC）の予測より三十年以上も速いペースで解けている可能性が大きい。」

観測チームは、米国の衛星に搭載されている宇宙航空研究開発機構（JAXA）の電波観測装置のデータから、北極海の氷の面積を計算。今月十五日の面積は、過去最小だった二〇〇五年九月より〇・15%少ない五三〇・七万平方キロメートルに縮小したことが判明した。このまま推移すると、今夏の面積は過去最小を大幅に更新し、IPCC第四次報告書が指摘した二〇四〇～二〇五〇年の予測値に早くも到達する可能性があるという。」



レダで実ったジャトロファの果実



支流から水草を回収し、ジャトロファの周りにマルチングする。

こうした現実に身近に起きていく地球環境問題を少しでも対処して行こうと、当会はレダの地でバイオ・エネルギーの開発や植樹活動を推進してきました。以下は今回五月から三ヶ月ほどレダに滞在して活動してきた飯野事務総長の報告です。

一、ジャトロファ栽培について

レダでは、バイオ・エネルギーを生産して行こうという取り組みが、一年前から始まつたが、特にジャトロファの栽培を通して推進することが、昨年十月から本格化し、現在第二農園、第三農園合わせてハヘクタール程に、四千本以上のジャトロファが植えられています。その内百本程が既に何らかの実を成らせて、ささやかな収穫を得ていますが、大半は、十月から迎える雨季に一気に開花して、最初または二回目の実を成させていくと期待されています。しかし、木がまだ期間的に充分に生長していない為、一年目の収穫はそれ程多くはないでしょう。三年目あたりになれば、木も充分生育し、安定した実の収穫が可能であり、ヘクタール当たりの収穫量も計算出来るようになります。ジャトロファは、同じ木から少なくとも三十年以上にわたって収穫が可能であると言っているため、軌道に乗れば、確実な収益を上げるようになると思われます。当面は収穫した種を絞つて油を取るよりも、国際的地球環境問題対策の一環として、ジャトロファ栽培ブームの中、栽培用の種の供給が間に合わない状況で高騰している程度から、当面は種のままkg単位で販売するところが、直接の収入として相応しいかも知れないと考えられています。

## 二、植樹活動について

一度に何万本も植える植林活動ではなく、木々の生えにくい荒地（粘土質、塩分）に植樹をして一本一本世話をしていく気の長い活動が始まって六年が経ちました。今まで植樹された木々の全てに対し、誰の何の木が何処に植えられ、植樹後どうなっているのかなどを調査し、マップ上に表現し、且つ枯れたり、よく成長していない木々の交換などをなして、申込者の夢を出来る限り生かせるよう配慮した作業が今回七月から八月にかけて、レダ現地において、緑の会の高津理事長と共に取り組んで来ました。その報告をしておきます。



植樹園には各種の小鳥が憩うている。

らの植樹された木々を管理しています。その内、何らかの原因で一本が枯れて、何本が成長不良かなどのデーターは、今回徹底した一本一本の木を全て確認しながら作業した「植樹マップ」造りと、全植樹木々の七五%以上撮影し終えた記録写真によつて整理され、明確にされるでしょう。（いずれ全ての個々の木の撮影は完了させての予定です。）



果樹園風景

それと共に、どういう木が良く成長し、どういう木がレダに難しいか、世話をする上においても何が良かつたか、悪かつたなども縁の会の戸石事務局長とも連携して、

総合的に検討される予定です。これらの検討・反省の上に、新たな方法を編み出し、今後も植樹活動は、継続的に発展させていくつもりです。「ご期待ください。



第3回青年ボランティア隊によって植樹されたラバーチョが白い花を咲かせている。



2001年9月に植えられた  
ゴールデンシャワーの木



マンゴウの花

第七回国際協力青年ボランティア活動に出発する前に過去七年間の活動報告を関心のある中学生、高校生に話し、ボランティア活動の大切さ、そして世界各地における発展途上国の現状を伝える集会を持つた。話を聞いて学生達は日本で生活することがどんなに物質的に恵まれているかを知り、今後、発展途上国の為に何かをしたいとの気持ちを持つてくれた。東京、世田谷の集会では中学生が話の後、数時間、文具を集める為に家庭訪問をしてくれた。

#### 集会に参加した感想



「私が文具をもらつたどこのでは声がかすれてしまいショックでした。でも文具を下さったかたはとても優しい感じの人でした。協力してもらえた所もあるけどいい経験をしたと思いました。パラグアイの子どもたちへの活動は子どもたちにもいい思いをしてもらえると嬉しいです。

「私が文具をもらつたどこのでは声がかすれてしまいショックでした。でも文具を下さったかたはとても優しい感じの人でした。協力してもらえた所もあるけどいい経験をしたと思いました。パラグアイの子どもたちへの活動は子どもたちにもいい思いをしてもらえると嬉しいです。

同じ空の下で生まれた人間が、こんなに不公平な環境で暮らしている。奉仕活動はこれをこそ改善することだと思いました。協力してくれた人たちの笑顔を見ると、バラグアイに住む人たちの為に貢献したいと強く思いました。私は初めてやったので少し緊張しました。でも協力してもらえたときはすくなく嬉しかったです。なので今日いただいたものは喜んで子どもたちに使ってもらいたいです。今日の体験はとてもよかったです。

「話を聞いて、役に立ちたいと思つた。将来貧しい人の為に役に立ちたい。水もろくに飲めないのはかわいそうだと思う。自分が幸せに思えた。」



南北米福地開発協会 事務局  
〒192-0001  
神奈川県川崎市高津区  
溝口二十一十五

電話 〇四四一八一九一一八一  
FAX 一九一一八一〇

会費納入 郵便口座  
一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦  
E MAIL office@asd-nsa.jp  
ホームページ  
<http://WWW.asd-nsa.jp>

